

第四回 高一国語

総評

評論、小説、古文、漢文について、苦手な分野を作らず、バランスよく国語の力を伸ばしていきたい。高一の現時点では、古文・漢文の学習状況によって、点数の差がつきやすく、今回の模試でもその傾向が見られた。古典で思うように得点できなかった人は、まず、単語の意味や文法事項、句形の知識などの基礎をしっかりと身につけよう。基礎固めがこの先の伸びにつながるので、今回間違えたところはきちんと復習しておくことが大切だ。

問題別講評・採点基準

一 評論

(一) 熟語は、一字でも誤りを含んでいたら不可。(b)「犠牲」の「牲」を誤るものが目立った。

(二) 「採点基準」

「a 唐突に悲惨な死を遂げた人が b 死者として存在するかのように考えること、c その人との関係の喪失に耐える(行為)」と説明して

* a 3点、b 3点、c 4点。

傍線部直後の具体例から、ここでの「亡くなった人」が自然な亡くなり方をしたわけではないことを押さえない。だからこそ、遺族はよりこのような行

為へと導かれるのである。「死者として存在するかのように考える」にとどまる答案も多かったが、そのような行為の意味にまで踏み込む必要がある。

(三) これはよく出来ていた。

(四) (ウ)では「湯灌に代わるもの」の意が表せない。また(オ)の「旧弊」には悪いものというニュアンスがあるが、筆者が「湯灌」を悪いものとしてとらえているとは読み取れない。

(五) 「採点基準」

「a 死体は b 死んだ状態の単なる物体という意味だが、c 遺体は d 生前の人格が想定されており、e その人が特別の関係にあった人びとに対し、処理を期待して残した身体という意味である。」と説明して

* a 1点、b 5点、c 1点、d 4点、e 5点。

全体的外れという答案は少なかった。いかに重複しないように要素をピックアップして答案にまとめあげるか、というところで差がついたようだ。

(六) 問題文のテーマが日本人の「死の文化」なので、実質的に問題文全体を対象とする内容合致問題である。選択肢が三行と長く、問題文の該当箇所と比較して丁寧に検討する必要がある。誤答としては(オ)が目立った。解説をよく読んで復習しておく。

二 小説

(一) (イ)という誤答が目立った。方向として間違っているわけではないが、相対的に正答よりは劣る、という選択肢である。こういった、明らかな誤りはない複数の選択肢の中から最適なものを選ぶ、という場合もあるので注意しよう。

(二) 誤答では(ウ)が目立つ。

(三) これはよく出来ていた。

(四) 「採点基準」

「a 長く生きられなくても、b 生きた証として誰かの心の中にそっと存在を残すことができれば満足だ」ということ。」と説明して

* a 4点、b 8点。

生きた証を残したい、というところは、多くの人が押さえられていた。

(五) 「採点基準」

「a 両親の子として生まれた奇跡に感謝しており、b 両親を大切に思っているということ、c 健一に伝えたかったから。」と説明して

* a 6点、b 4点、c 2点。

解答の大枠は「何かを健一に伝えたかったから」となるが、その伝えたかった「何か」だけに答案内容を絞ってしまい、それを健一に伝えたかったとまでは言っていないものが多かった。

(六) (エ)という誤答が散見されたが、「絶望」の前提

となるべき「生きたい」という意欲が英樹の言動には見られないことに注意しよう。

三 古文

(一) まずは動詞を正しく抜き出せたかどうか、振り返っておいてほしい。

(二) (y) 「げに」の誤りが目立った。語義を知らず文脈だけから選んだ結果が(エ)「先だって」だろう。

(三) [採点基準]

「私が以前に窮楽に頼んでいた書を b あなたが持つて来なさるならば、c あなたが窮楽の子どもである証拠としよう」と訳して

* a 3点、b 2点、c 3点。

「これ」とは何か、「携へ」るのは誰か、何の「証」となるのかを説明したうえで口語訳する。説明に意識が行ってしまったせい、「給ふ」や「べし」の訳がおろそかになってしまったのが目立つ。

(四) 傍線部の「心を隔て」という表現に引きずられてしまったせい、(ウ)という誤答が目立った。

(五) [採点基準]

「a 下血で汚れた b 父の寢床を c きれいにするのを d 汚らしい(と思うこと)」と説明して

—— 6点

* a 2点、b 2点、c 1点、d 1点。

「汝もまた同じとはいへど」まで反映させようと

すると、字数が足りなくなる。ポイントを絞り込んでも解答を作成しよう。

(六) A [採点基準]

「a 父への b 世話や病気の看病の様子」と説明して

* a 1点、b 4点。

B [採点基準]

「a 久兵衛の父への b 親孝行ぶり全体」と説明して

* a 2点、b 3点。

「これら」に第一段落の内容も含まれると解釈してしまったものが多かった。

(七) 誤答は割れている。正しく読めた人が少なかったことの表れだろう。

(四) 漢文

(一) 思ったより出来が悪かった。いずれもよく問われるものである。間違えた人は、この機会に覚えておこう。

(二) [採点基準]

「a 公乗不仁をして b 觴政たら(を為さ) c しむ」と書き下して

* a 2点、b 3点、c 1点。

「為」は動詞・助動詞いずれの読みも可とした。

(三) [採点基準]

「a 文侯は b 飲んだけれども c 盃一杯全部は d 飲み干さなかった」と訳して

* a 1点、b 2点、c 2点、d 1点

「文侯は飲んで飲み干さなかった」という答案があった。「尽」以外のわかるところを訳そう、ということだろうが、「飲んで飲み干さなかった」は日本語としてつながりが悪いことに気づきたい。

(四) (i) (イ)という誤答が目立った。逆に言えばどうなるか、ということ、傍線部に続く部分もあわせて考える。

(ii) [採点基準]

「a 自分でルールを決め、b 家臣たちが問題なく受けている罰杯は c 文侯も受けるべきだ」と説明して

* a 2点、b 5点、c 3点。

これは難しかったようで、方向違いの答案が多々見られた。

(五) 誤答では(ウ)が目立ったが、君主が臣下に対して「承」ることはない。